

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 28 年 11 月 30 日発行

第 28 号

発行人 校長 鈴木史良

自分の将来について考える

—— 中学部がチューリッヒのベルフス・メッセを見学 ——

11月23日(水)、日本では「勤労感謝の日」で休日でした。ちょうどこの日に中学部の生徒はオエリコンにあるメッセ・チューリッヒで開催されたベルフスメッセを見学し、さまざまな職業について理解を深めました。「勤労感謝の日」とは“勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう”ことを趣旨として昭和23年に公布・施行された国民の祝日です。偶然ですが、中学部の生徒たちにとってはキャリア教育として、将来の職業について考える日となりました。

生徒たちは、3校時から引率教師らとともに会場に向かいました。目的は、“他国における職業教育(進路・キャリア教育)を見学・体験することにより、自分自身の将来の職業決定を含めた進路や中学校卒業後の進路に対する意識を高める”ことです。日本の中学校でも事業所や工場、商店等に受け入れを依頼し、そこで実際に働く職場体験を実施していますが、ベルフスメッセのようにさまざまな職業が一堂に会したところで見学・体験する機会は少ないと言えます。本校の生徒たちは、予め用意していた質問をしたり、いろいろなブースを訪問してミニ体験したりする等、積極的な活動ができました。

<体験した中学生の感想>

● 日本とスイスの職業選択の違いについてどのように思いましたか。

☆ スイスの職業選択は、職業に就きながらその職業を学べること。中学校を卒業したら就職活動に入ることができることがわかり、よいと思いました。

☆ 日本よりもよいシステムだと思いました。将来につながる仕事のことまでも、ちゃんと学校がサポートしているし、14、15歳から働く経験をもつと、自主性も育つと思います。

● ベルフスメッセを通して気づいたこと、認識が変わったことはどんなことですか。

☆ 日本にいたときには職業について深く考えたことがなかったけれど、ベルフスメッセで体験してみて、仕事内容や資格などについて知ることができました。



パン生地をこねてねじりをつける作業



☆ 大学の卒業間近に就活をするのではなく、
スイスのように中学生の頃からベルフスメッ 電動ドリルで木片に穴をあける作業
セのようなものがあって、職業や進路について深く考えられるようになったらいいなと思いました。

● **ベルフスメッセを通して、感じたこと、考えたことを通しての感想は何ですか。**

☆ スイスの子は意外と将来のことを考えているんだなと思いました。日本の中高生は、スイスの中高生に比べると楽だから、もっと頑張らなければいけないと思いました。

☆ スイスと日本の職業選択についての考え方が違いました。スイス人たちがどういふふうに通ったり勉強したりしているのかがわかりました。

法人チューリッヒ日本人学校臨時会員総会にて

11月29日(火)、本校で臨時会員総会が開催され、児童生徒の受け入れについて話し合われました。現在の定款及び運営規則に拠りますと、日本人の子女のみを受け入れるという形になっています。しかし、グローバルに展開する日本人学校の在り方も鑑み、長期にわたって日本の教育を受けてきた児童生徒が本校に入学を希望する場合は、校長の推薦のもと運営委員会の決定に委ねられることになりました。欧州の他の日本人学校では日本国籍ではない子どもも学んでいる例があります。今後、グローバル人材の育成がますます盛んになってくることでしょう。

12月の主要予定

ホームページでの公開はしていません。ご了承ください